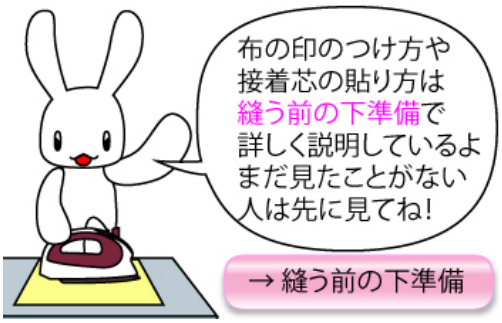
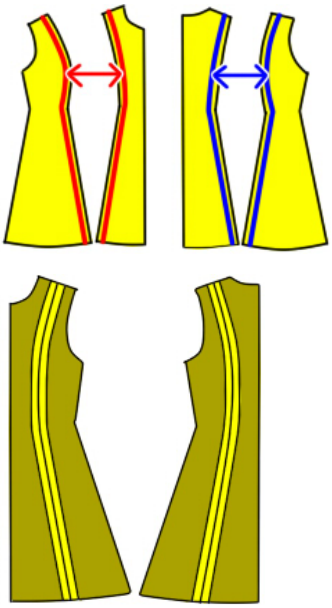


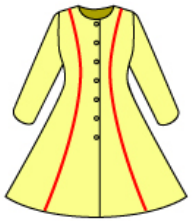
■表　■裏　■接着芯

裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。

型紙に指定された場所の裏に接着芯を貼ってください。

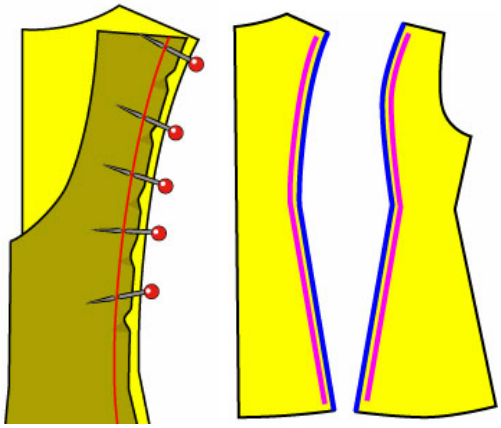
お洋服に模様や刺繍を入れたい場合はこの時点で入れておくと楽です。





中央とを脇を前後の身頃を表側同士が内側になるように重ねて1cmの幅で縫ってくさい。

縫い終わったら縫い代をアイロンで左右に折ってください。



中央の部品と脇の部品のところは縫う場所と縫い代の端の長さが異なるので、端を合わせると長さが合いません。

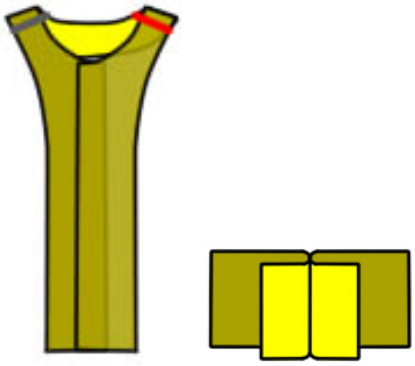
そこで合わせるのは端ではなく出来上がり線をあわせます。

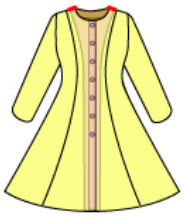
脇の縫い代は出来上がり線より長いので図のように少し浮きますが浮くのが正解です。

待ち針を深く刺すと引きつったり縫うときに余計な部分を縫い込んだりしやすいので、出来上がり線の上を1～2mm刺すと縫いやすくなります。

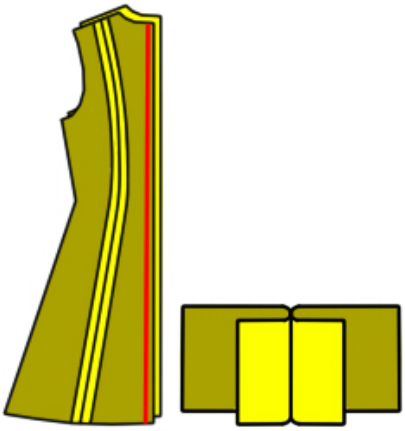
例　ピンク（出来上がり線）の長さは等しい。

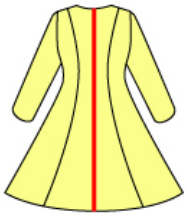
青（縫い代の端）はピンクの線に比べ、前中央側は短く、脇側は長くなる。



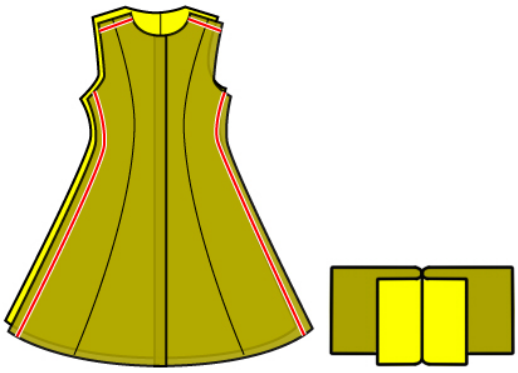


見返しの両肩を1cm幅で縫ってください。
縫い代は左右に広げてください。





前後の身頃を表側同士が内側になるように重ねて後中心を1cm幅で縫ってください。
縫い代にアイロンをかけ左右に折ってください

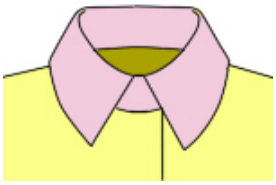


前後の身頃を表側同士が内側になるように重ねて肩と脇を1cm幅で縫ってください。
縫い代にアイロンをかけ左右に折ってください

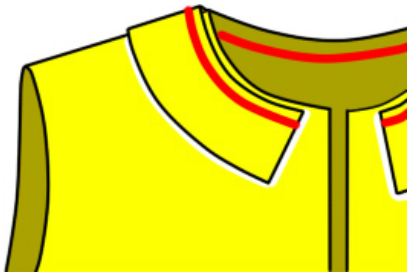
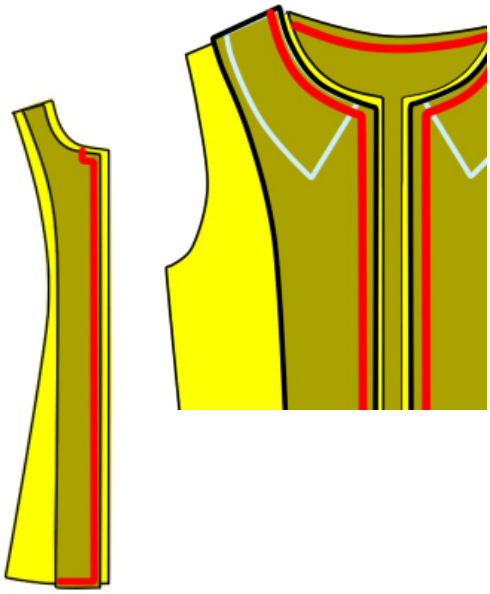
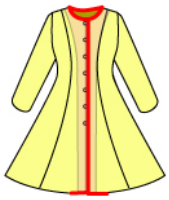
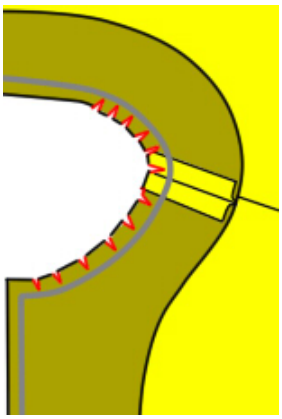
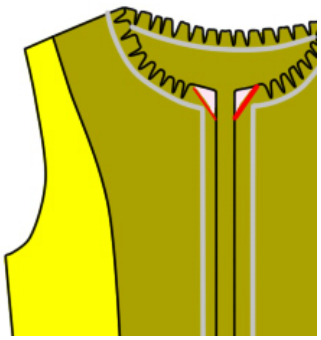
えりの縫いかた　えりをつけたくない場合は赤枠のところは飛ばしてください。

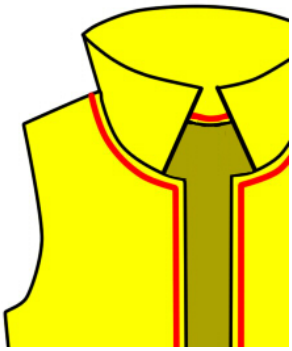
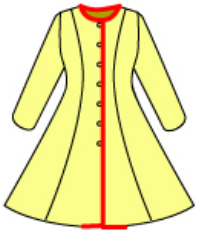
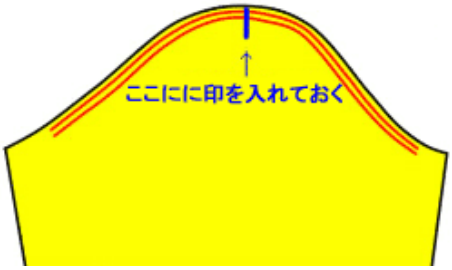
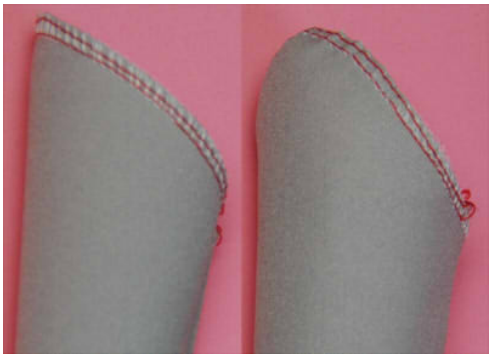
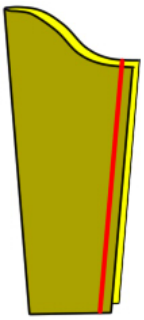
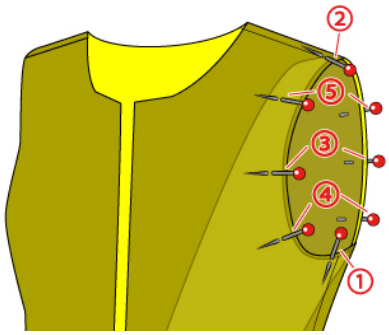
スタンドカラーの縫いかた

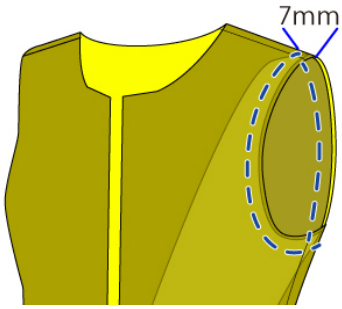
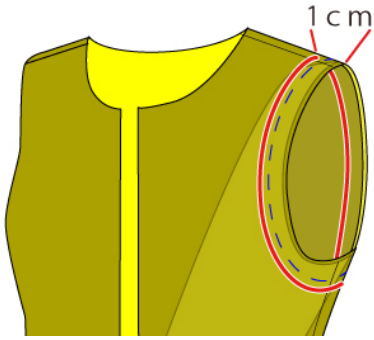
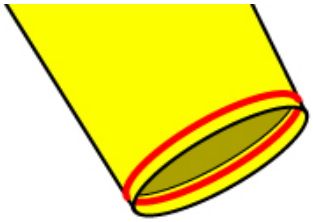
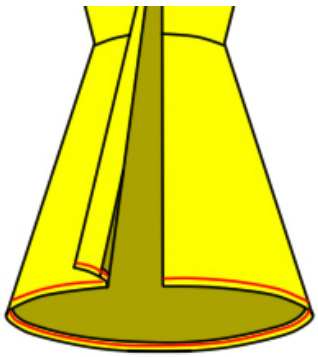
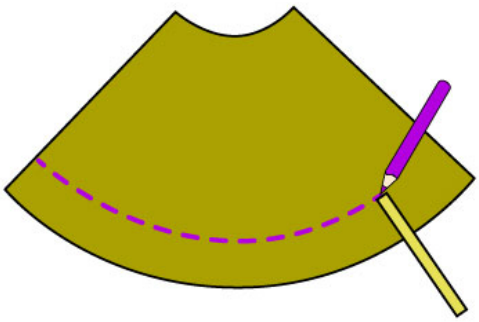
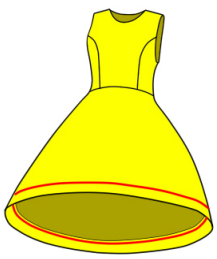
えりを表側同士が内側になるように重ねてください。
1cm幅で縫ってください。



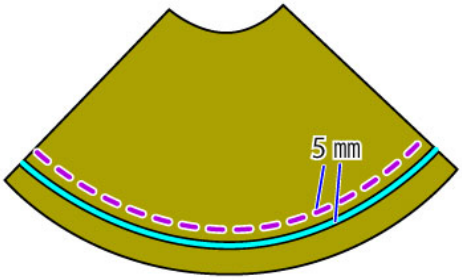
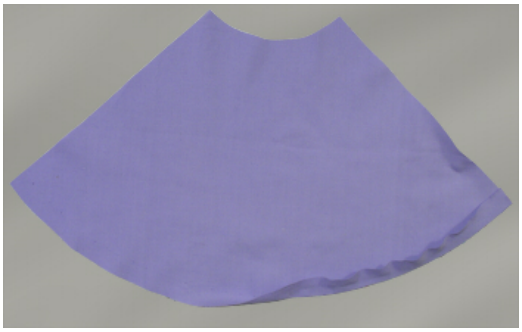
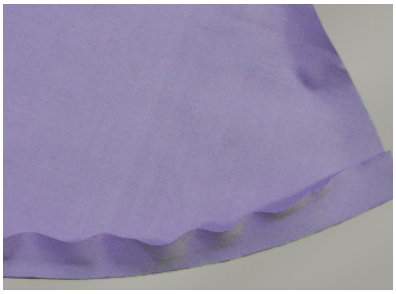
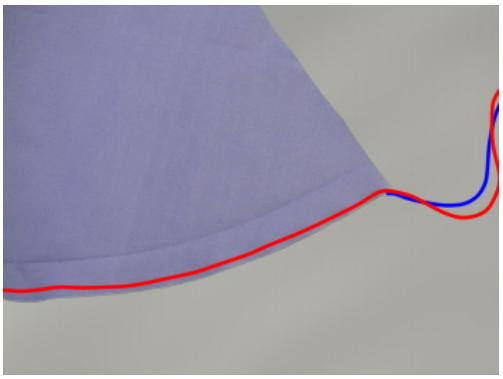
シャツカラーの縫い方は一番下へ

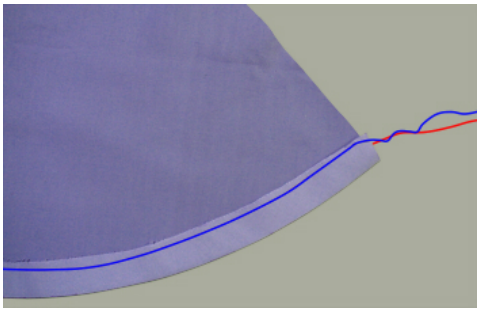
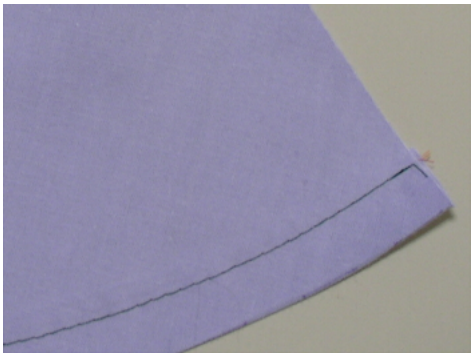
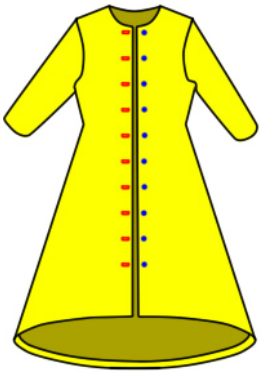
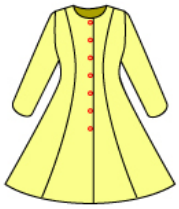
	角は縫い代が重なって厚みがでるので、角の縫い代から2mm離れたところをきってください。
	表にかえし端から5mmのところを縫ってください。
	身頃にえりを重ね、5mmくらいの所を縫ってください。 えりの端はFNP(フロントネックポイント)というしるしにあわせてください。 えりとえりくびにはそれぞれBNP,SNP,FNPという印があるので、対応した同じ場所を合わせて縫い合わせると綺麗に仕上がります。
	 身頃と見返しを表同士が内側になるように重ね、1cm幅で縫ってください。
	 カーブの所は切込みを忘れずに。 切込みを入れず見返しを裏がえすと引きつった感じになります。 （試しに切り込みをいれずに裏返してみてください、そうすると意味が分かると思います） 角の縫い目から2mm離れた所を切ってください。

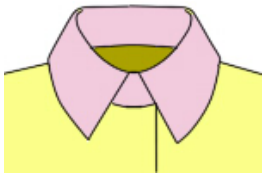
<table>
<tr>
<td>  </td>
<td> 
見返しを裏へ返し、えり首の縫い目から5mmの所を縫ってください。</td>
</tr>
<tr>
<td> 
</td>
<td>
そで山にはそでを立体にする為に余裕が入れられています。
ココでギャザーを寄せておかなければ、そのままつけるとあまってしまう筈です。</td>
</tr>
<tr>
<td>  </td>
<td>またそで山の高い細身のそではそのままつけると左の写真のように体に添わない形になるので、そでぐりより長くし、ギャザーを入れることによって丸みを出して立体的になるように作られているものもあります。
こうやって比較を見ると、ギャザーを入れる意味が分かっていただけると思います。</td>
</tr>
<tr>
<td>  </td>
<td>
表が内側になるように半分に折ってください。
1cm幅で縫ってください</td>
</tr>
<tr>
<td> 
</td>
<td>そでは表側が見えるようにひっくり返してください。
裏返したままの身頃の中にそでを入れてください。
脇→肩→印という順に待ち針を刺してください。
そでの山のギャザーの糸を引っ張って長さを調整してください</td>
</tr>
</table>

	手縫いで端から7mmくらいのところを縫ってください 縫ったら待ち針ははずしてください。 全部を手縫いで作る場合はここは省略してください
	端から1cmの所を縫ってください。 縫い終わったら仕付け糸ははずしてください
	 試着してそでの長さを確認してください。 問題がない場合 アイロンでそで口を2cm裏へ折って下さい。 １．5cmのところを縫ってください。 丈は中に折る縫い代の幅を増減して調整してください
	 すそを2cm裏側へ折って1.5cm幅で縫ってください。
	 アイロンで2cm裏へ折ってください。 すそをあげるときスカートのすそがカーブしていると、カーブの弧は内側と外側では長さが異なるので、折りあげた時端がだぶついてしまいます。 すその縫い代の2倍の幅の所に印をつけてください。

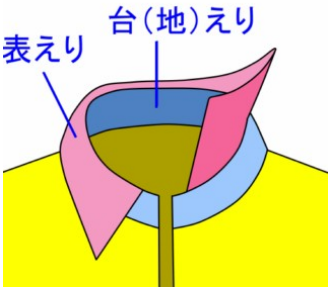
<table>
<tr>
<td> </td>
<td>フレアスカートのようなすそのカーブのきついデザインは左のようにすその縫い代がずれてねじれてしまいやすいです。
こういう場合は、熱接着の両面テープを使うと生地がずれません。

熱接着の両面テープ</td>
</tr>
<tr>
<td> 
</td>
<td>印から5mmはなれたところに熱接着の両面テープを貼ってください。</td>
</tr>
<tr>
<td>  </td>
<td>アイロンで出来上がり線で折ってください。
そのまますそ上げをすると、端の方が出来上がりの長さより長いので、しわがよったり綺麗にすそ上げが出来ません。
  このように長さの差がだぶつきになります。</td>
</tr>
<tr>
<td>  </td>
<td>すそから3～5mmくらいの所に、ギャザーをよせてください。</td>
</tr>
</table>

	下糸（ミシンのボビン側の糸）を引っ張りながら縮めてください。 均等に縮めながらアイロンを掛けるとこのように綺麗に落ち着きます。 ※カーブのきつい場合は多少ダブつきます。
	1．5cmの幅で縫ってください。 こうすると生地がねじれずにすそがあげられます。
	 ボタンホールをあけて、反対側にボタンを付けてください。 ボタンホールの開け方はお手持ちのミシンによって異なりますので、ミシンの説明書を見てください.。 ボタンホールが苦手な方はスナップボタンどめにしてボタンは飾りにするという方法もあります。 仕上げに縫い代にしっかりアイロンをかけて完成です。 仕上げのアイロンはしわをのばすよりも、縫い代にしっかり折り目をつけることが重要です。



シャツカラーの縫い方

	このような2つのパーツの縫い方です。 各2枚づつ裁断してください。 上側を表（上）衿、下の方を台（地）衿と呼びます。

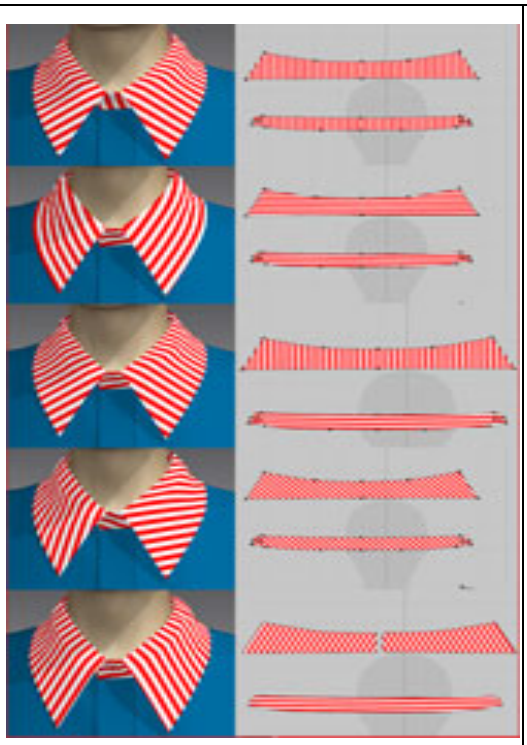
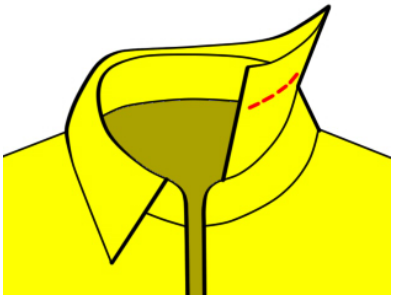
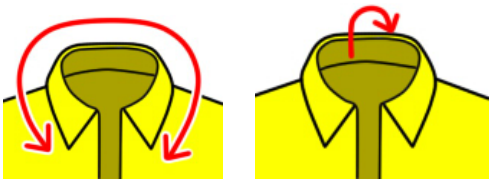
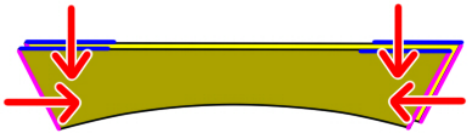
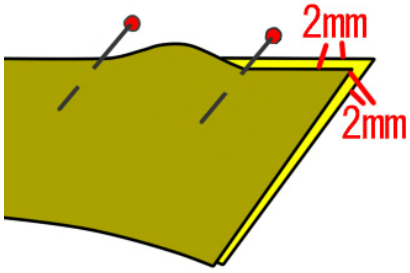
<table>
<tr><td>  </td><td>えりの柄の向きと実際の柄の出方のめやす。
※ただしカーブの大きい襟の場合また変わってきます。</td></tr>
<tr><td> </td><td>えりの裏に接着芯を貼はってください。
台えりの裏側に隠れるほうの下側の縫い代をアイロンで2mmくらい狭く折っておく。1cmの縫い代だったら8mmくらいで。
この2mmがミシンで縫ったとき縫い目がえりから落ちにくくなるポイントです。</td></tr>
<tr><td>  </td><td>
どちらが表から見えるえりか、裏に隠れるえりかわからなくなりやすいので、しつけ糸などで、裏に隠れる方のえりに印をつけてください
完成したら抜くので玉止めなどはしなくていいです。</td></tr>
<tr><td> 
図1</td><td>
えりのゆるみを作ってください。
このタイプのえりは図のように表に折り返すためのカーブと首にそったカーブ（図1）があります。
外側のカーブと内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなります。</td></tr>
</table>

図2

その差を補うために2～3mm表になるほう（外側に折り返すほう）を内側に入れ込んで、長さを調節する必要があります。
これをしないと図2の右のえりのように長さの不足する表側のえりが引きつってえりの先がぴょこっとあがってしまうので注意が必要です。



この区間は均等に待ち針を刺し縫う。

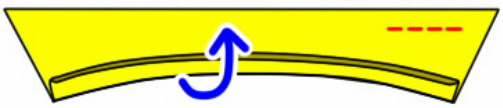


えり先のゆるみの作り方

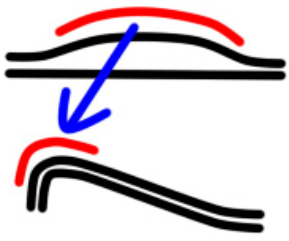
このとき図Aのように「表に見えるほうのえり」（印の付いていない方）を2～3mm内側にずらしてまち針をさしてください。
しわが入らないように、目打ちなどでダブ付いた分を内側へ押しこむようにして縫ってください。

シャツカラーの縫い方
衿（えり）を表が内側になるように二枚重ねて縫ってください。
※衿に縫い付ける所は縫わない。

表に返して5mmの所に表から縫って（ステッチ）固定してください

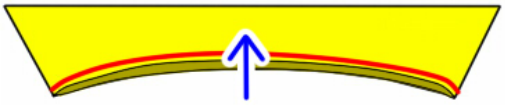
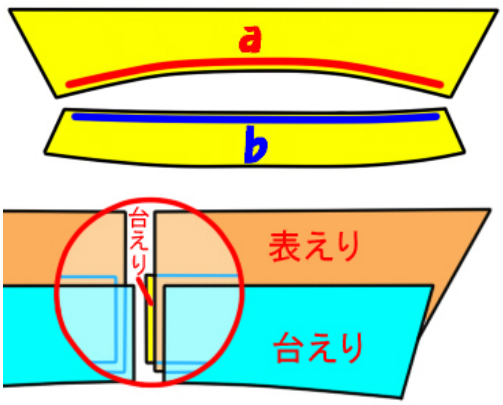
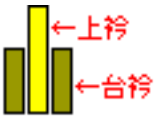
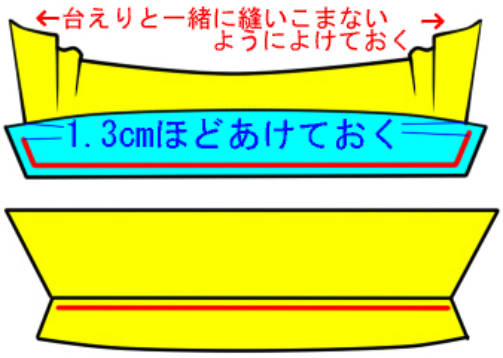
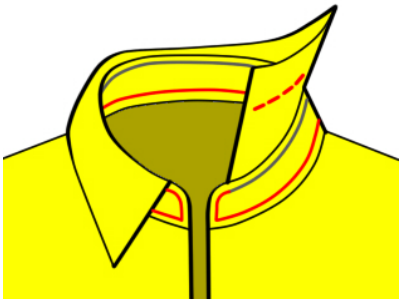
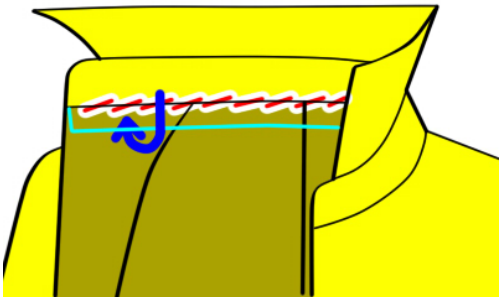


印がある方へえりに付ける部分の縫い代を折ってください。
この時えりがズレます。
このずれが折り返しの緩みになります。
赤の矢印の方向のゆるみ。



断面図

こうすると図のように見える側のえり（印がないほう）が膨らみますが、実際えりにつけた時に、えりを折り返した時の布の厚みで相殺されて、えりがすっきりします。

	上で出来たズレを、そのままに端から0.5cmの所を縫ってください。
	 2枚の台えりで間に上えりを挟むようにして重ね、上の図のaとbの部分を縫ってください。 ちなみに先に縫い代を折っておいた台えりは、表えりの見えるほうのえりへあわせてください。
	間にはさんだ上えりの両脇を縫いこまないようによけておく。 台衿の両サイドも縫ってください。 台えりの端1.3㎜位は縫わずにあけておく。 表に返して縫い目から0.5cm（赤い線）の所を縫ってください。 ★柔らかく仕上げたいときは、上の赤い線は縫わずにアイロンをかけて形を整えてください。
	えりの端を前身頃の前中心に合わせてください。 しつけの印のある方のえりの縫い代だけ、身頃のえり首に縫いつける
 	縫い代を内側に折る。 仕付け糸で大まかに縫ってえりがずれないように固定してください。 ミシンで表から0.5cmの所を縫ってください。 ★柔らかく仕上げたい場合は、縫い代を内側へ折り、手縫いでえりを閉じてください。

いるもの

- □ 表生地
- □ 接着芯
- □ ボタン（もしくはスナップボタン）お好みの数
- □ 生地にあった色の糸

オススメの生地

普段着なら綿ツイルやポリエステルアムンゼン、あまり厚くないウールなどが作りやすいと思います。

コスプレなら光沢が不要な場合ポリエステルツイルやポリエステルアムンゼン、光沢が欲しいなら、ポリエステルサテンなどがいいと思います。

・ポリエステルツイル

化繊なので綿ツイルに比べて軽いです。しわになりにくいです
扱っているお店によって厚さと、張りが異なるので、通販の場合はサンプルを取り寄せたほうが失敗がないと思います。

・綿ツイル

どこの手芸店でも比較的手に入りやすく、ジーンズの生地よりは薄く、チノパンくらいの厚みのある生地

出来上がった服を着て長い時間座ったりするとシワが入ります。

扱いやすい生地です

・アムンゼン

柔らかくドレープ感のあるデザインに向いています。

化繊なので軽く、しわが入りにくいです。

ポリエステルツイルより軽いです。

ややテロテロしているので裁断のとき少しずれやすいです。

ポリエステルツイルでも記載しましたが、同じ商品名でもお店によって仕入先が異なるので、張りや厚みが違うものがあります。
特に通販で買う場合は一度サンプルを取り寄せてからお買い物するといいと思います。